

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2016 年 8 月 1 日 発行
(通巻 470 号)

現代座レポート No. 67

- ・「武蔵野の歌が聞こえる」 第 3 次上演 (1)
- ・出演者／物語の背景と合唱構成劇の流れ (2)
- ・「木村快さんとのふたたびの出会い」 永戸 祐三 (3)
- ・「心をつなぐバラエティ劇場」 (4)
- ・「遠い空の下の故郷」 大野幸児／「りんどうの会」 (5)
- ・現代座を支える人々 No. 24 長谷川葉月さん (6)
- ・「劇場の役割を考える」 木村快／現代座会館活動日誌 (7)
- ・お知らせ 会員入会、継続、寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987

武蔵野を協同の大地に変えた川崎平右衛門 第 3 次 武蔵野の歌が聞こえる

◆「武蔵野の歌が聞こえる」は昨年と一昨年、2 年連続で 9 月に現代座ホールで公演しました。昨年は 608 人、一昨年は 755 人に見ていただきました。そして今年も 9 月 2 日から 7 日まで公演することになりました。

この作品は、最初は小金井市民に見てもらおうという企画で、地域の方々と協力して制作したのですが、思いがけない形で色々な人たちに広がっていきました。昨年は農協やワーカースコープの方たちがたくさ

ん見てくださり、協同の輪が広がっています。

◆武蔵野新田の開発は元禄大地震、宝永大地震、富士山噴火と相次ぐ災害で崩壊しかかった幕府の財政を立て直す目的で始められましたが、武蔵野台の開発は困難を極め、10 年以上たっても完成できず、挫折しかかります。上から目の線幕府役人では無理でした。平右衛門が開発指導を成し遂げたのは、彼自身が被災地の農民として育ち、農民の自立した協同の力を



知っていたからでした。

◆今年には日本労働者協同組合連合会（ワーカースコープ）が「協同の原点を見つめよう」と都内全域で取り組んでくださることになりました（参照 P3）。そして毎年応援してくださいっている公演サポーターの皆様もチケットやチラシを持って動き始めました。

◆俳優たちも観客の共感を通して、昨年の 2 次公演では大きく成長しました。今年も参加俳優もさらに 4 人増えて、よりダイナミックで力強い劇場になるよう努力していきます。

面倒な江戸時代の説明も、去年は 3 人の女優が「三人娘」と自称してさまざまアイデアを持ち込み、実に楽しい場面になりました。

今年には熊本地震で被災地の方々は大変な苦勞をなされています。災害復興のドラマとしても力強い歌声を響かせたいと思います。

ご期待ください。

2016 年 9 月

2 (金)	19:00
3 (土)	14:00 19:00
4 (日)	14:00
5 (月)	19:00
6 (火)	14:00 19:00
7 (水)	19:00

開場は開演の 30 分前です

毎回 80 名の予約制です。
事前にお申し込み下さい。

Tel 042-381-5165

会場：現代座ホール

参加費 一般 3000 円 小中高 1000 円

第3次 合唱構成劇 武蔵野の歌が聞こえる (2016年度)

脚本・演出 木村 快 作曲 福沢達郎



木の下敬志



中村保好



石川秀樹



黒澤義之



今村純二



東志野香



矢川千尋



長谷川葉月



みきさちこ

松下菊乃
(ピアノ演奏)新井紀子
(ピアノ演奏)岡田杏珠
(ピアノ演奏)織壁哲夫
(市民参加)

長津宏夢



松本コウ



金島清史



八木澤賢



八木浩司

合唱構成劇の流れ

江戸時代最大の危機

18世紀のはじめ、日本列島は元禄大地震、宝永大地震、富士山噴火、浅間山連続噴火と相次ぐ災害で農業は大きな打撃を受けます。

多摩川河畔の押立村で育った平右衛門は10歳の時、関東一帯をおそった元禄大地震を体験します。さらに14歳の時には日本史上最大と言われる宝永の大地震と富士山の噴火で、畑は火山灰に覆われ、作物は全滅という大きな衝撃を受けます。この災害の世の中で百姓はどう生きて行けばいいのか。

幕府は、復興を進めることができません。宝永大地震の後わずか10年の間に第5代将軍徳川綱吉、第6代将軍徳川家宣、第7代将軍徳川家継と相次いで亡くなり、幕府は大混乱に陥ります。

◎♪開幕合唱「富士が燃える」

1幕 宝永大地震と享保の改革

改革の始まり

享保元年、宝永大地震で災害を受けた紀州藩の復興をやり遂げた徳川吉宗が第8代将軍に就任します。しかし、幕府は40万両に及ぶ負債を抱え、財政は崩壊寸前でした。もはや世襲の役人

では幕府の改革は難しく、吉宗は元禄大地震で震災仮奉行の役を担当した旗本、大岡越前守忠相を江戸町奉行に擢し、「享保の改革」と取り組みます。

◎♪合唱「新しい村をつくれ」

吉宗と大岡は不毛の大地と言われた武蔵野台一帯に、食料増産のため82カ村に及ぶ大新田の開発を計画します。それまで自分の畑を持てなかつた農家の次男・三男が関東一円から集まってきます。

◎♪合唱「苦しみの歌」

しかし、新田開発は思うように進みません。武蔵野は火山灰が堆積した土地で、保水が難しく、その開拓は困難を極めます。その上、気候寒冷化のため天候不順がつづき、享保の大飢饉や元文の凶作が相次いで起こり、幕府の財政は再び危機に追い込まれます。

◎♪合唱「小金井橋へ急げ」

開発を始めて16年目の元文3年、武蔵野新田は完全に崩壊状態でした。

大岡忠相は武士の役人に代えて、百姓の心根をよく知る多摩郡押立村名主・平右衛門に新田開発の指導をゆだねます。平右衛門は新田百姓の救済に立ち上がります。

2幕 協同への目覚め

新田回復は可能か

平右衛門は全農家を戸別に訪問して実情を調べ、もう尋常の手段では回復は不可能だと判断します。しかし、幕府には百姓救済の資金はありません。なんとか百姓自身が開拓の意欲を取り戻す方法はないものか。

◎♪合唱「協同の喜び」

平右衛門は老人や赤ん坊も一緒に生かされる村づくりを目ざし、全員に食料を分配し、全村一体となった村づくりをすすめます。

平右衛門は百姓自身による協同復興方式を次々と編み出します。百姓の組合をつくり、百姓が自立できるよう努力します。やがて離村した農民も戻ってきて人口も増え、新田面積も倍増します。さらに飢饉に備えて協同の備蓄をすすめて、玉川土手には桜の苗を植えました。

◎♪合唱「さくら咲く村」

新田開発を成功させた平右衛門は、幕府の要請で水害に苦しむ美濃の国へ旅立ちます。玉川土手に桜が咲きはじめたころでした。

木村快さんとのふたたびの出会い
不屈に社会をいきる

社会をつくる

永戸 祐三



永戸 祐三（ながと・ゆうぞう）
日本労働者協同組合
（ワーカーズコープ）連合会
理事長

人間性と協同

大学に入る前私は一度、演劇の道を選択しようとしたことがあります。残念ながら、その道に入ることはなく、結果今のような仕事をしています。学生の頃からいくつかの演劇集団の方々と交流もあり、かなり深く付き合ってきた人たちもいます。その中でいつも感じたことは彼らは生活が苦しいにもかかわらず芸の道に対する前向きで純粋な態度への共感でした。

私が木村快さんと初めてお会いしたのは1990年、中西五洲氏（当時センター事業団理事長）と木村さんが対談されたときでした。あまりよく覚えていないのですが、当時の記録を読むと、やはり人間性と協同・協同組合の意味やあり方が対談だったようです。その当時、私は事業団運動、センター事業団の発展に全力を挙げていた頃で、なんとではなく対談に刺激を受けていたのだと思います。

働く人間の側から歴史を考える

そして今、四半世紀ぶりに木村快さんに再会することとなりました。昔の印象とほとんど変わらないの少し驚きました。若々しいというより、昔から一途に生き、活動してこられた風貌がそのままという想いです。「不屈の人」といえばいいのでしょうか。沖繩の瀬長亀次郎（故人）さんが「不屈」を信条としておられました。それが同じような感覚なのだと思います。

社会と歴史はいつも支配者の記録と記憶で埋まっています。しかしどんな権力者の下でもどんな抑圧下の社会でも社会と歴史の動輪を前へ進めてきたのは「名もなく、貧しく、美しい」市井の人々でありました。そんな人々の営みを掘り起こし、協同の視点から彼らの行為に歴史的意味を与え、現代に問う。これが木村快さんの作品の基本軸、通底する思想なのだと思います。それは反動化し、未来に暗雲漂うこの日本社会にあつて人々に限りなき勇気を与えてくれるものだから感謝し、感動しています。

未来を開くワーカーズ・コープ

ワーカーズコープは、1979年に中高年雇用福祉事業団から始まり、労働者協同組合に発展させ、現在は協同労働の協同組合として、運動・事業を進めています。地域社会からの評価を少しずつではありますが、いたるところまでできました。1979年の創生期から今日までの道のりは平坦なものではなく、多くの困難がありました。働く仲間の血のにじむような奮闘

によって、今日のワーカーズコープがあります。その歴史は、社会がどんなに変化しようとも「協同」「不屈」を焦点にして、そこに生活している民（たみ）に焦点をあてた芝居をつくってこられた木村快さんの歴史と通ずるものがあると考えています。再び木村快さんとその作品に出会えたことは、私にとってかけがえないことなのです。

9月の「武蔵野の歌が聞こえる」の公演では、多くのワーカーズコープの仲間がみせていただくことになるでしょう。そんな中で、私自身もワーカーズコープの歴史と木村快さんの生き様を重ねあわせながら、協同組合の社会的役割や意義を社会に広めていくための示唆を、ともに働く仲間や木村快さん、木下美智子さんとともに考えあう機会にしたいと思います。

◆ワーカーズ・コープ（労働者協同組合）について
労働者協同組合とは、地域が必要とする事業を働く人自身が資本を持ち寄って起業し、民主的に運営する組織です。国際協同組合同盟（ICA）の協同原則に基づき協同組合であり、世界的にも新しい地域社会活性化の担い手として期待されています。

かつて木村快が中西五洲氏と対談するきっかけとなったのは、演劇界ではきわめて特殊な集団と見なされていた統一劇場（現代座）が、実は労働者協同組合と全く同じ考え方で運営されていたからです。1964年に職業劇団から突如解雇された70名の失業劇団員は、それ以外に生きる手立てがありませんでした。そして、協同は心を豊かにしてくれる道であることに気がついたのです。

心をつなぐ バラエティ劇場

5月27日(金) 28日(土) 29日(日)
の3日間、現代座3Fの小ホールで「心をつなぐバラエティ劇場」というお茶を飲みながら気楽に楽しむ公演が行われました。

これは現代座の俳優たちがそれぞれ工夫して、お客さんに楽しんでいただくことをやってみようという企画です。

最初はまずリフックスしてもらおうと、いっしょに歌うことから始まりました。誰でも歌える「見上げてごらん夜の星を」に手話をつけて歌います。説



普段は会話を交わすこともない人々が一緒に笑い、顔を見合わせます。



木下美智子の担当です。

して、楽しい雰囲気になります。これは

矢川千尋はシエル・シルヴァスタイン作「おおきな木」の語りです。雰囲気は



一転して、遠い昔の童心にかえります。リンゴの木が大好きな少年が人生の節目節目

でリンゴの木に語りかける心境、そして木と共に老境にいたる道をみなさんは頷きながら聞き入っていました。

長谷川葉月は宮沢賢治の珍しい童話「カイロ团长」の朗読です。「カイロ」と



は岩手地方の方言で、蛙のことです。アマガエルたちとトノサマガ

エルが出てくる小さな動物たちの王国の物語です。個性豊かなカエルたちが生き生きと活躍します。

東志野香はお客さんが参加して楽しめる物をと考える



ました。挑んだのは「江戸小咄」。短いお話を軽妙に語り、お客さんとのかけ合いを楽しみます。

「隣の空き地に囲いが出来たつてねえ」とお客さんに問いかけると、誰かが「へーえ(堀)」とこたえて、大笑いします。「これはぼけ防止になるね」という楽しそうなお客さんの声が聞こえました。

第2部は黒澤義之の語り「小金井小次郎」です。

幕末から明治にかけて大きく揺れ動いた時代、厳しい身分社会では農民は農民であり続けるほかはなく、小次郎は新しい世界を夢見て無宿者となり、「弱きを助け、強きをくじく」任侠道の親になります。しかし36歳の時、幕府の役人に捕らえられ、三宅島に流されてしまいました。三宅島は水不足に苦しむ島でした。水豊かな小金井で育った小次郎は、流罪

人を組織し、島民とともに大貯水池を作り、水不足問題を解決しました。

これは小金井に実在した人物の話で、木村快が語りの台本を書き、2010年に女性二人の語りとして上演したことがあります。

何か地元の話をしたいと考えた黒澤義之は、木村快の台本を元に大幅にカットしたり新しく調べたことを加えたりして、自分で台本を創り語りました。

この企画は、現代座のお隣に新しく出来た高齢者住宅から「芝居か何かだし物をやってもらえませんか」と頼まれたのがきっかけでした。その時はもつと短いものでしたが、やってみたら「こんな風に色々なことをやるのも楽しいね」という話になって「バラエティ劇場」が生まれました。また新しい企画でやりたいと思います。

(木下美智子)



「小金井小次郎」を語る黒澤 義之

遠い空の下の故郷

〜ハンセン病療養所に生きて〜

6月27日(月)長野県中信教育事務所主催の人権教育研究協議会及び人権啓発講演会が、松本合同庁舎で行われました。分科会のひとつとして「遠い空の下の故郷〜ハンセン病療養所に生きて」の語りを聞いていただきました。学校の先生や公民館の人権担当の方、長野県内各地の教育事務所の方など30人ほどの参加者でした。これは昨年の安曇野市での公演を見た教育事務所の大野幸児さんが、どうしてもこれを講演会が分科会で取り上げたいとがんばってくださって実現しました。以下、大野さんが地元で発行された通信です。



長野県中信地区では、「自分らしく生きる」ともに生きる」というテーマのもと、現代社会の中で様々な理由で生きづらさを抱えている方、ハンセン病患者の方、刑を終えて出所した方の人権に焦点を当て学び合いました。今回は、その中でも「ハンセン病患者の方の人権」についての分科会の様子を紹介します。

会場の前方に設置された小さなステージ。そこでNPO現代座の木下さんと今村さんが「ハンセン療養所に生きて〜遠い空の下の故郷〜」と題した発表をしてくださいました。何度も何度も国立療養所を訪れ、入所されておられる方から直接聞き取りを積み重ねてきた木下さん。どんどん高齢化していく元患者の皆さん。この方々がおられない方々がなくなると、ハンセン病をめぐる差別もなくなることになってしまふのかもしれない。隔離政策により家族と離れ生涯の多くをそこで過ごさねばならなかった患者さんの思

い、家族の思いを無駄にはならない。生きてきた証をしつかり残していきたい。そのために自分は、入所者の方からお聞きしたことを、その方に成り代わって広めていきたいとのこと。ここでは阿部智子さん、山口トキさん、お二人の方の話でした。

木下さんの語りは、「お二人の心の叫びが目の前から聞こえてきたような感じがしました」と参加者の方の感想にあるくらい心に響いてきました。

また、今村さんの奏でるアコーディオンの伴奏で、参会者全員が歌った「ふるさと」。いつもは自分の故郷を懐かしく思いながら温かい気持ちで歌っていたこの曲が、全く違うように思えました。

「私が死んで灰にしてもらったら、川に流して欲しい。私の住んでいた故郷の家の隣には川が流れていた。だから、私はそのすぐ近くを通って、あの懐かしい我が家を見ることができる。もしかしたら、もう家はなくなっているかもしれないけれど、故郷の景色を眺めることができる。」という語ってくださった元患者さんがおられたそうです。この思いを皆さんはどのように受け止めるでしょうか。

参加者の方からは「今まで知らなかったことを知ることができてよい経験となつた」「今まで報道などで理性的に知ったつもりでしたが、それとは違った心の理解ができたように思う」という感想をたくさんいただきました。

学校や地域において、子どもたち、保護者、地域住民の方々…にさらに広がっていくことを願っています。

大野幸児



りんどうの会 (3F小ホール 7月9日)

語りとピアノ演奏 一房の葡萄

構成・演出 杉山龍 演奏・津田哲子

りんどうの会が3F小ホールで有島武郎作品のひとり語りを、フレデリック・ショパン小品集のピアノ演奏と組み合わせ上演しました。

語り作品は「僕の帽子のお話」「暮石を呑んだ八つちゃん」「一房の葡萄」です。

有島武郎は大正期白樺派の作家ですが、日本最初の協同所有農場の開拓者としても記憶されて良い人物です。父が所有していた北海道の開拓地を小作人に無償譲渡しますが、小作人たちが悪徳商人に狙われていることを知り、土地と農機具を参加者全員の協同所有とするカリブト共産農団を設立し、助け合って生きることが条件とします。政府が「共産」にクレームを付けたため、名称は「共生農団」となりました。

HQ(連合軍司令部)の指示で解散に追い込まれてしまいました。

ここで語られる作品はどれも童話作品ですが、有島武郎の人となりやそれをなく感じさせてくれる語り口で、ショパンの小品曲と相まって大変心優しいひとときをつくりだしていました。



NPO現代座を支える人々 第二十四回 長谷川 葉月さん

記 武本英之



長谷川 葉月さん
(はせがわ・はづき)

女優であり、画家であり、書籍編集者としても活躍。朗読指導、殺陣にもかわるなど多彩な顔を持っている。

ふしぎなやすらぎ

今、そこにある安らぎ——そんな癒しの気分を感じさせる女優さんである。3年前の5月に現代座で上演された「出会いの街」で地域の人々が集う小さなカフェのママさん役で現代座デビュー。商店街の店員さんやタクシードライバーが悩み事を持ち込むたびに相づちを打ち、そこにいるだけで存在感を感じさせてくれた。コーヒー喫茶店の店主役は夢だったんですと葉月さん。2作目は川崎平右衛門の足跡を描く「武蔵野の歌が聞こえる」で解説役の三人娘の一人を演じている。台本では要点が指示されているだけで、その展開は三人娘が工夫を凝らして自由にイメージし、演じていく。昨年の再演では更に楽しさが広がり、観客の喝采を受けていた。今ではすっかり現代座ではお馴染みの役者さんになった。

葉月さんを現代座にみちびいたキューピット役は当座で俳優・舞台監督を務める寺崎昌広さん。シアター青芸の芝居「ふるさとをください」(シエームス三木作・演出)で主役を演じた寺崎さんと葉月さんは共演した

仲。寺崎さんが「この人なら」と「現代座に向いてるうな役者」に意識的に声掛けしたところ、葉月さんや木の下敬志さん、八木浩司さんら、次代を担う若手澆刺の役者さんたちが次々と現代座に関わるようになってきたのである。

これまでの葉月さんの詳しい芸歴はご自身のホームページをご覧になっていただくとして、OL時代に劇団仲間と芝居をやったり、日光江戸村で忍者役をやったり、青芸の「THE WINDS of GOD」で4年間全国巡演された。

市井の人々が生き生きと描かれる

現代座の舞台に出演してみようですか。「木村快さんは役者と話しているうちに、台本をほとんど変えていくのです。これには驚きました。決めた演出をされた記憶が全くありません。こんな経験は初めてでした」と葉月さん。某演出家は役者にABCとグレードを付け、葉月さんは「なんで私がランクCなの!？」と呆れたらしい。「出会いの街」で快さんは、役者が楽に居られるよう舞台には好きな物を置いていいよ、と指示。ママさん役の葉月さんは、好きな本や自分で描いた絵を持ち込んだそうだ。

現代座のお芝居は「若い芝居好きの仲間が観に来るといふより、生活をしている普通の方が観に来られるものが多いですが、ここのお芝居は普通の市井の人達が生き生きと描かれています。それに観る人は共感するんですね。不思議だなアと思います」。現代座の芝居(木村快作品)の特徴をよく押さえた感想だ。

現代のテーマ「出航」を上演したい

葉月さんは女優のほかに、朗読家と絵描きという別の二つの顔をお持ちだ。その二つとも趣味のレベルを超え筋金入り。2001年から都内老人ホームで毎月1回、朗読と紙芝居のイベントを続けている。昨年、現代座にて「誰でもできる朗読教室」を開講、1期生9人が今年3月に発表会を行った。第2期が4月スタート、6カ月にわたる毎月第2・第4水曜に50〜60代の男女10人が文学作品の朗読に挑んでいる。

絵は6月、カンボジアのアンコールワットが水面に映る夜明けを描いた120号(縦190×横130)の日本画大作「薄明華(はくめいか)」が女流画家協会展に初挑戦で初入選、東京・上野の美術館に展示された。受賞歴は多いが、この時は勤労者美術展で東京都知事賞受賞以来7年目という。

これからの現代座への期待について「『出航』がやりたいお芝居です」と葉月さん。出航は前身の統一劇場が「混迷の海を行く」というテーマで1980年代に一時代を画した、知る人ぞ知る木村快作品。まさに現代のテーマだと最近ビデオ上映会で観て盛り上がったとか。現代座会館については「お年寄りにきつい階段はそのままでも、必ずサポーターがいますとか、工夫して手作りの良さを生かせたら」とご指摘いただいた。



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

混迷の時代・劇場の役割を考える

木村 快

このところ世界は連続するテロ事件、イギリスのEU離脱国民投票、アメリカ大統領予備選でのトランプ旋風、そして日本では熊本地震、都知事辞任、参議院選挙と騒然としています。こんな時代、わたしたちの劇場では何を問いかけるべきなのか。劇場は政治の混乱に対して、このころの在りようを探る役割があります。

劇場の役割を考える勉強会で、1960年代の離島振興法による島社会の崩壊をあつかった「遙かなる島」、1970年代の200海里問題で混乱する漁業問題を描いた「出航」、1970年代からの農業構造改善事業で廃村の危機にさらされる開拓部落を描いた「風は故郷へ」など、統一劇場・現代座作品のビデオ上映会を開いています。

混迷の海を行くー「出航」

「出航」は1981年から全国上演された作品です。経済成長まっしぐらだった日本が最初に受けた衝撃は国際的な漁業資源規制による



200海里問題でした。中小漁船は次々廃船に追い込まれ、第16宝龍丸の乗組員達も必死で陸の仕事を探します。しかし、海で育った人間にとって陸の仕事は地獄の毎日です。宝龍丸の解散式で、乗組員達は名残り惜しんで「沖揚げ音頭」を合唱し、踊ります。そのうち、一人で逃げ回るより、運命を共にしようと、一転して「どうせ果てるなら海で果

てるよ」と再び混迷の海へ船出することを決意します。こうした展望のない題材を取り上げるべきかどうかでは、わたしたちの間でも問題になりました。海員組合からの後援も取り消されました。ところが漁業問題を抱える北海道各地で「戦う勇気を貰った」と絶賛を受け、ついに全国326回の上演が実現しました。

ここが劇場のふしぎなところですね。逃げ場のない人間は経済的な切り抜け策で苦慮するうちに孤立し、逃げ道ばかり探しがちです。しかし、同じ仲間同士の心が共鳴を起すこと、自分たちの中に眠る根源的な力に気づき、新しい生き方が見えてくるのです。

豊かさとは何かー「遙かなる島」

「遙かなる島」は1983年に東京都青ヶ島村の協力を受けて制作され、全国で237回上演されました。

経済成長の一環である離島振興法によって、絶海の孤島でも急速な近代化が進められていました。日本全体は成長する中で、島では農作物を運び出す道路や港の建設事業で収入は豊かになったけれど、肝心な島は荒れ果て、事業が終われば島を出なくてはならない不安に襲われます。ある日、台風の直撃を受け、港も道路も崩壊してしまいます。

出口のない近代化に揺れる島は日本の縮図であり、未来への警告でもありました。運悪くこの島に生まれた者はどう生きて行けば良いのか。島の住民は目先の豊かさを求めた生き残り競争が共に生きる絆を失わせてきた現状を知り、もう一度力を合わせて作物を作ろうと誓い合います。

いずれも30年以上前の作品ですが、録画に残る観客の反応は文字で記された歴史と違って、五感を通して当時の息吹を伝えてくれます。たとえ弱者の側にあっても力を合わせ、心を共鳴させることによって、生きていく道筋を開いた歴史があったのです。

共生協同に関心を持つ人たちの要望に応じて、映像記録と一緒に鑑賞し、語り合う会を開いています。

現代座会館 5月〜7月 活動日誌

4月24日「現代座レポート66号」発送作業

24日「木村快雑談会」DVD上映「出航」

5月19日「緑町ふれあいサロン」

30日「協同総研」相良氏来訪

31日「遠い空の下の故郷」緑中公演打合せ

6月16日「緑町ふれあいサロン」

19日「SPレコード雑談会」

20日「武蔵野の歌が聞こえる」プロジェクト会議

28日「協同勉強会・快塾」

7月8日 1F男性トイレ改修

11日「武蔵野の歌が聞こえる」サポーター会議

21日「緑町ふれあいサロン」

31日「SPレコード雑談会」

【現代座ホール】

5月26・30日 希望舞台「焼け跡から」稽古

31日・6月1日 シアター青雲「ウインズオブゴッド」稽古

6月4日 劇好「サボテンアミーゴ」ワークショップ

6月28日・7月11日 燐光群「コンドララドン」稽古

7月15日 「ながめくらしつ」ジャグリング撮影

24・31日 「ミュージカルカンパニー・ふるきやら」稽古

【三階小ホール】

5月 希望舞台「釈迦内枢眼」稽古

5月27・29日 「心をつなぐバラエティ劇場」公演

7月9日 りんどうの会「一房の葡萄」公演

7月23日 津田「リトル・コンサート」

7月28・31日 スタジオ・ポラーノ稽古

朗読教室

毎火曜日 東志野香のヨガ教室

【定期使用 二階サロン】

毎日曜日 早稲田ラジオスクール(学生支援)

毎月曜日 子どもクラブ・バンビーノ

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 iPad 熟年講座

お知らせ

TEL 042-381-5165
FAX 042-381-6987武蔵野を協同の大地に変えた川崎平右衛門
合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』

脚本・演出：木村快 音楽：福沢達郎

2016年9月2日(金) 14:00 19:00
3日(土) 14:00 19:00
4日(日) 14:00
5日(月) 14:00 19:00
6日(火) 14:00 19:00
7日(水) 14:00 19:00会場 現代座ホール
参加費 一般3000円 小中高1000円
各回80人予約制
申込みは電話 042-381-5165
FAX 042-381-6987

木村快を囲む会

「函館音鑑とのきずな」(仮)

日時：9月24日(土)午後2時
会場：函館音鑑(北海道)
主催：函館音楽9条の会

『遠い空の下の故郷』

～ハンセン病療養所に生きて～

小金井聖公会・ファミリーフェスタ
日時：10月22日(土)午後2時
会場：小金井聖公会礼拝堂

NPO 現代座

誰でもできる朗読教室

朗読教室2期生の発表会を開きます

日時 2016年9月28日(水)13:30開演
入場無料 (開場は開演の30分前)
会場 現代座3階小ホール

第3期 受講者募集!

基礎訓練から舞台での発表まで(12回講座)

開講期間 2016年10月～2017年3月(6ヶ月間)

日時 毎月第2・第4水曜日(原則)13:30～16:00
(人数によって終了時間変更あり)

全12回、最終月の3月は

舞台稽古と発表会本番になります

講師 長谷川葉月 募集定員 10名

受講料 18000円(全12回、発表会費用も含む)

◆近代から現代の文学作品などをテキストにした初心者向けの講座です。朗読に大切な発声の技法と、口をきれいに動かすための基礎訓練を取り入れ、朗読に適した声作りをしていきます。まずはテキストを全員で読み分け、作品を読む楽しみを味わいましょう。

2017年2月には各自が発表作品を練習し3月にその成果を舞台で発表しましょう。

お申し込みはNPO現代座まで

第2期の教室の見学ができます。ご連絡ください。



NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員	3,000円
協賛会員	10,000円(1口以上)

 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座